



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.832 2012年5月1日

ARIBからのお知らせ

情報通信月間「電波の日記念講演会」開催のお知らせ

移動体通信の高度化や放送の多チャンネル化が進展するなど、電波利用システムは社会経済活動のみならず国民生活において不可欠なものとなっております。

通信分野では、今年1月に開催されたITU-Rの無線通信総会において、第4世代移动通信システム(IMT-Advanced)に係る勧告(M.2012)が承認されました。また、国内においては、より高速・大容量で利便性の高い移动通信システムの導入に対応するため、700/900MHz帯の周波数再編が行なわれつつあります。

放送分野では、本年3月をもってアナログ方式の地上テレビジョン方式が完了するとともに、4月からは、VHF-High帯を用いて携帯端末向けのマルチメディア放送が開始されました。また、BS放送については、新規の放送事業者によるサービスの提供により、3月からはテレビ、ラジオ及びデータ放送をあわせて31チャンネルまで拡大されました。

一方、わが国の製造業を取り巻く環境としては、東日本大震災からの復興を進める中、タイでの大洪水による生産設備への甚大な被害や、円高による輸出関連産業の経営への圧迫など、ますます厳しい状況になってきており、国際競争力の強化に向けて新たな対応が必要となっております。

このような情勢を踏まえて、一般社団法人電波産業会では、総務省のご後援(予定)を得て、6月1日の電波の日を記念した情報通信月間参加行事として、「電波の日記念講演会」を下記のとおり開催いたします。講演会では、「電波利用の現状と今後の展望」をテーマにして、総務省並びに電気通信事業者、放送事業者及び無線機器製造業者の各分野のトップの方を講師にお迎えして、それぞれのお立場でご講演を頂きます。

ぜひ、ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 日時 : 2012年6月5日(火) 13:10から16:00まで(開場12:40)
- 2 開催場所 : 明治記念館 蓬莱の間 (<http://www.meijikinenkan.gr.jp/>)
東京都港区元赤坂 2-2-23 電話 : (03) 3403-1171
- 3 実施機関 : 主催 一般社団法人電波産業会
情報通信月間推進協議会
後援 総務省(予定)

4 講師

(1) 総務省

基調講演

総合通信基盤局 局長 桜井 俊 氏 (予定)

(2) 電気通信事業者

「新時代に向けた ICT によるサービスイノベーション」

日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 宇治 則孝 氏

(3) 放送事業者

「動き出した「NOTTV」 ～スマートフォン向け放送局～」

株式会社mmbi 代表取締役社長 二木 治成 氏

(4) 無線機器製造業者

「安心・安全で快適なスマート社会実現への取組み(仮題)」

沖電気工業株式会社 代表取締役社長 川崎 秀一 氏

5 参加者 : 電波の利用者、電波に関連する産業界及び一般の方々 250 名

6 参加費 : 無料 (事前登録制)

7 申込み先 : 当会 Web サイト (<http://www.arib.or.jp/>) 「講演会等開催案内」から参加登録

8 問合せ先 : 一般社団法人電波産業会 企画国際部 栗田、芝山

電話 : (03) 5510-8592 E-mail : denpanohi2012@arib.or.jp

ARIBの動き

第 191 回技術委員会 (通信分野) を開催

第 191 回技術委員会 (通信分野) を開催しましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成 24 年 4 月 25 日(水) 午後 2 時から 3 時 12 分まで

2 場所 当会第 2 会議室

3 議事概要

(1) oneM2M に関する国際会議の結果についての報告

(2) CJK-11 (宮崎会合) の結果についての報告

(3) AWG-12 会合の結果についての報告

(4) ワイヤレス国際普及部会の活動終了についての報告

(5) 光無線通信システム推進協議会(ICSA)の解散についての報告

(6) マルチメディア移動アクセスフォーラム解散及び今後の活動に
についての報告

(7) 平成 23 年度における照会相談業務の状況についての報告

(8) 第 19 回書面表決による技術委員会の結果についての報告

(9) 電波の日記念講演会の開催についての説明

APT 無線グループ第 12 回会合 (AWG-12) の概要

APT 無線グループ第 12 回会合 (AWG-12) が開催されました。

- 1 日程：2012 年 4 月 10 日～4 月 13 日
- 2 場所：Crowne Plaza Hotel Paragon Xiamen (中国・アモイ)
- 3 出席者：

約 200 名が出席しました。日本代表団として、総務省電波部移動通信課・田沼企画官を団長に 28 名が出席し、うち、ARIB からは、佐藤、小川、小山、木幡の 4 名が出席しました。
- 4 会合の目的：

アジア・太平洋地域における IMT-Advanced を含む無線システムの高度化並びに普及促進に向けた検討・情報交換が行われました。
- 5 主要概要

5.1 AWG の構成

APT 無線グループ (APT Wireless Group：略称 AWG) の第 12 回会合は、前回会合に同じくプレナリの下に 3 のワーキンググループ (WG) を設置し、各 WG は課題毎にサブ WG (SWG) およびタスクグループ (TG) を設置した構成の下で活動を行いました (図 1 参照)。

AWG Plenary	
議長： Mr. L. Sun (Huawei/中国) 副議長： 佐藤 (ARIB), Ms C. Perera (GSMA)	
WG Spectrum Aspects (WG SPEC) : Mr. J. Lewis (AVA/ニュージーラント) SWG-SA&H “周波数アレンジメント&協調”： Ms K. Zhu (MIIT/中国) SWG-SM “電波監視”： Mr. Z. Liu (MIIT/中国) TG-SSIMT “IMTシステムに関する共用検討(デジタルデバイス含む)”： Ms J. Welch (クアルコム/香港) TG-PPDR TG-BWA “緊急・災害支援関連”： Mr. B. Bhatia (モトローラ/インド) TG-FSS “BWA”： Dr. E. Lim (サムスン/韓国) “10-15GHzにおける固定衛星周波数”： Mr. K. Seow (SES World Skies/シンガポール) ⇒ 議長代行： Ms. W.K.Wong (Asia Satellite Telecommunications)	
WG Technology Aspects (WG TECH)： Ms J. Song (サムスン/韓国) TG-CRS&SDR “ソフトウェア・コグニティブ無線”： Dr. B. Lang (CATR/中国) TG-IMT “IMT のサービス・技術”： 新 (NTTドコモ) TG-ITS “ITS 関連”： 小山 (ARIB) TG-SRD “SRD”： 宇野 (ATR)	
WG Service and Applications Aspects (WG S&A)： Dr. A. Qiantori (PT テレコムインドネシア) TG-FMC “固定と移動の融合”： Mr. F.X.A. Wibowo (PT テレコムインドネシア) TG-RC “無線通信関連の融合”： Mr. J. Li (チャイナユニコム) TG-MSA “新たな衛星アプリケーション”： Ms T. Lee (Measat Satellite System/マレーシア) TG-A&M “航空・船舶関連”： Mr. J. Ding (MIIT/中国)	

図 1 AWG の構成

5.2 各 WG での主要結果

(1) WG SPEC (議長： J. Lewis 氏(Added Value Applications))

- 806-960MHz 帯の周波数利用に関する質問票を完成・承認しました。
- IMT ベースの技術とネットワークを利用した PPDR に関する APT レポートを完成・承認しました。
- 3GPP TSG-RAN からのリエゾン文書へのリプライとして、AWG での 700MHz 帯での進捗状況を通知するリエゾン文書を作成・承認しました。
- 3400-3600MHz 帯の周波数利用に関する質問票を完成・承認しました。
- 2500-2690MHz 帯の周波数利用に関する APT レポートに向けた検討を進めました。

(2)WG TECH (議長： J. Song 女史 (サムスン))

- APT 諸国における移動通信の動向と予測に関する新 APT レポートを完成・承認しました。
- CRS (コグニティブ無線) 及び SDR (ソフトウェア無線) に関する新 APT レポートを完成・承認しました。更に CRS の展開シナリオ及び関係技術に関するレポートの作成を合意しました。
- 将来の IMT 技術の開発に関する質問票を完成・承認しました。
- ITU-R WP5D 第 13 回会合のワークショップ (Research Views on IMT Technology Evolution) に向けた活動計画をまとめました。
- AWG-13 会期中 (初日の午後半日) に IMT に関するワークショップを開催することを決定し、コンビーナーに ARIB・佐藤が指名されました。
- 無線電力伝送に関する Task Group (TG) を設置することと、その所掌事項を決定しました。TG 議長は韓国から推薦される予定です。
- アジア太平洋地域における移動通信事業者の周波数、技術及び免許期間の情報に関する APT レポート (APT/AWF/REP-15) の改訂について合意し、必要な情報の提供を求めるサーキュラーレターを作成しました。
- ITS (Intelligent Transport Systems)、SRD (Short Range Device) に関し、既存レポートの改訂や新レポート作成に向けた作業を行いました。

(3)WG S&A (議長： A. Qiantori 氏(PT テレコムインドネシア))

- FMC サービスとアプリケーションに関する質問票を完成・承認しました。

(4)その他

- 第 34 回 APT 管理委員会での決定に基づき、AWG 技術文書の承認手続きを改訂しました。
- WRC-15 に向けた AWG と APG の協力関係に関するリエゾン文書を作成しました。
- 第 34 回 APT 管理委員会での決定により AWG が外部団体とリエゾン文書のやり取りができるようになったことを通知するとともに、今後とも友好的な協力関係を継続したい旨のリエゾン文書を作成しました。
- ミリ波通信システムに関する ASTAP へのリエゾン文書を作成しました。
- APT での 700MHz バンドプランの名称 (APT700) に関する 3GPP へのリエゾン文書を作成しました。

5.3 その他

- JTG4-5-6-7 の議長であり、ECC 議長の T. Ewers 氏との JTG に関する情報・意見交換並びに APT と ECC との協力関係に関する非公式会合を行いました。
- 次回会合 (AWG-13) は、ベトナム主管庁のホストで 9 月 5 日～8 日 (9 月 3 日～4 日に開催予定の APG2015-1 会合の直後) に開催される予定です。

平成 23 年度における照会相談業務の状況について

当会では、無線局数の増加による電波利用の進展に伴い、電波の有効利用に対応するため、昭和 62 年 11 月に郵政大臣（現総務大臣）から電波有効利用促進センターの指定を受け（当時（財）電波システム開発センター）、昭和 63 年 4 月から電波利用に関するコンサルティング（以下、照会相談業務）を実施しています。

主な照会相談業務としては、①無線回線の回線設計・混信計算、②回線設計及び混信計算に基づく使用可能な周波数の検討及び③電波伝搬障害防止業務を行っています。このうち、①及び②の業務の対応状況は以下のとおりです。

また、平成 23 年 3 月 30 日の内閣総理大臣からの一般社団法人への移行認可を受け、総務大臣あて電波有効利用促進センターに指定された当会の名称の変更届及び照会相談業務規程に記載された当会の名称の変更に伴う認可申請を行い認可後、規定類等の変更を行いました。

1 対象無線局

3.5GHz 帯から 23GHz 帯の周波数を使用する以下の無線局を対象としています。

- (1) 電気通信業務：移動通信基地局用エントランス回線用の固定局
- (2) 公共業務：防災行政用、電気事業用及びガス事業用等の固定局
- (3) 放送業務：放送番組中継用及び番組素材中継用等の固定局
- (4) 衛星業務：JCSAT 及び SUPERBIRD 等の人工衛星局・地球局

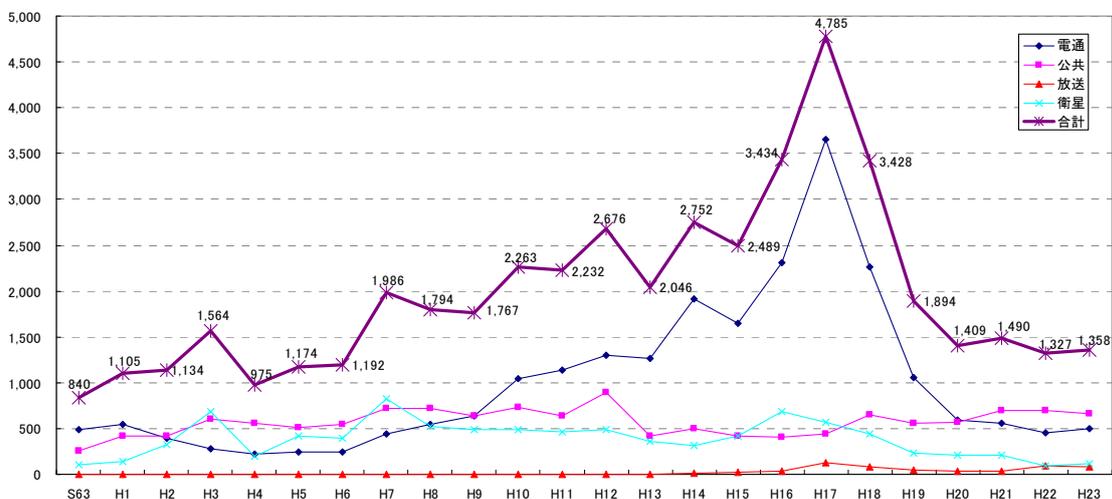
2 平成 23 年度における申込区間数及び対応状況

(1) 申込区間数：1,358 区間（下図参照 照会相談業務申込区間数の推移）

(2) 東日本大震災の影響を被った照会相談業務申込者（免許人）への対応：

照会相談業務の処理結果報告書の有効期間（1 年）以内の免許申請が困難となった免許人の事情を考慮して、同報告書の有効期間を延長することとし、24 区間に対応いたしました。

照会相談業務処理状況（年度別：区間数推移）



技研公開 2012 わくわくが、あふれます。

日本放送協会

NHK 放送技術研究所（技研）では、下記の日程で一般公開を実施します。平成 24 年度からの 3 か年の経営計画「豊かで安心、たしかな未来へ」に掲げられた重点目標「創造・未来」の「放送と通信の融合時代にふさわしい、さまざまな伝送路を利用した新たなサービスを充実させます」の実現のために必要な研究開発をはじめ、技研のさまざまな取り組みや研究成果を紹介します。

○開催日時：

2012 年 5 月 24 日（木）～27 日（日）

午前 10:00～午後 5:00

終了の 30 分前までにご入場ください。

○主な展示：

- ・ 放送とインターネットを連携させて、視聴者のみなさまにテレビの新しい視聴スタイルを提供する Hybridcast®
- ・ あたかもその場にいるかのような臨場感あふれる映像・音響体験を提供するスーパーハイビジョン
- ・ 特別な眼鏡が不要で、実物を目でみると同じような自然な立体映像を見ることのできるインテグラル立体テレビ
- ・ 安心・安全を守るための情報を、高齢者や視聴覚障害者を含む全てのみなさまにお届けするための、人にやさしい放送を実現する技術

このほかにも、新しい番組演出を実現する高度コンテンツ制作技術、将来の放送サービスの基盤となる次世代デバイス技術など 36 項目の最新の研究成果を展示します。また、技術の詳細を解説する講演・研究発表・ポスター展示や、ご家族連れにもお楽しみいただける体験展示も行ないます。さらに、期間中の土日には、職員が主な展示を一般の方々にもわかりやすく解説するガイドツアーなどのイベントも用意しております。

詳しい情報は NHK 技研ホームページに随時掲載していきます。

<http://www.nhk.or.jp/str/>

編集後記

この号から 5 月に入ります。一年で一番気持ちのいい季節ではないでしょうか？梅雨に入るまでの短い期間ですが、存分に楽しみたいと思います。
(編集子：Oz)



ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp